

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域・1事項を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ◎ 調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
- ◎ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 関…国語への関心・意欲・態度 話・聞…話す・聞く能力 書…書く能力 読…読む能力 言…言語についての知識・理解・技能

大 問 ・ 領 域	小 問		設問のねらい	観点別評価				
				関	話・聞	書	読	言
1 読むこと	問一		目的に応じて、中心となる文をとらえて文章を読むことができる。				○	
	問二	(1)	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読むことができる。				○	
		(2)	文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめることができる。	○			○	
2 話すこと・ 聞くこと	問一		司会の役割を理解している。		○			
	問二	木村	提案などの役割を考えながら話し合っている。		○			
		森田						
		山本						
	問三		司会の役割を考えながら話し合っている。	○	○			
3 言語事項	問一	(1)	当該学年の前の学年までに配置されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。					○
		(2)						
		(3)						
		(4)						
	問二	(1)	当該学年の前の学年までに配置されている漢字を読むことができる。					○
		(2)						
		(3)						
		(4)						
	問三	(1)	辞書を利用して調べることができる。					○
		(2)						
		(3)						
	問四	(1)	文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。					○
		(2)						
4 書くこと			文章の間違えを正したり、よりよい表現に書き直したりすることができる。	○		○		
5 書くこと			目的に応じて適切に書くことができる。			○		

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析 (◇…成果、◆…課題)

全 体	◇設問に対して前向きに取り組み、解答することへの意欲がうかがえる。 ◆目的に応じて、適切に表現すること(記述)に課題がある。 ◆問いの意味を十分に理解しないまま解答していて、正対していないことに課題がある。
領 域 別	<読むこと> ◇中心となる文をとらえること(情報を取り出すこと)は、おおむね身に付いている。 ◆文章の内容と自分の経験とを結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。 <話すこと・聞くこと> ◇話し合いにおいて、司会の進行としての役割は、経験から理解している。 ◆司会として、話し合いを進めるに当たって、具体的に発言を整理したり促したりするための言葉を使うことに課題がある。 〔言語事項〕 ◇配当漢字の読み書きや基本的な語彙の使い方は、おおむね身に付いている。 ◆文の構造を理解し、主述の関係を正しく把握することに課題がある。 <書くこと> ◆書いた文章をよりよい表現に書き直すことに課題がある。 ◆目的に応じて適切に書くことに課題がある。
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	◆問いに正対して答えること。 ◆条件に合わせて自分の経験や考えを述べること。 (p. 7【問二】について参照) ◆文を正しく読んだり書いたりするために、文の構造を理解すること。 (p. 11 指導のポイント3参照)

(2) 指導のポイント

<指導事項を明確化し、言語活動を通して指導すること>

国語科の学習を充実させるためには、教師が単元の指導計画を立てる時に、付けたい力(指導事項)を明確に位置付け、言語活動を設定することが大切である。その際、目の前の児童の実態と教材の特性から児童にどんな力を付けたいか、また、そのためにはどのような言語活動を行うと効果的なのかを見極めることが重要となる。

<学習過程の明確化>

単元の導入時に、児童が見通しをもって主体的に学習できるように、教師と児童が共同で学習課題を設定し、学習計画を立てるようにすることが望ましい。この時は、児童全員が同じ土俵に乗ることができるように、教師は、付けたい力と設定した言語活動を意識して、①既習内容の確認と一人ひとりが自己の力を認識すること、②学習活動(言語活動)に対する意欲を高めることへの働きかけや工夫が大事である。

<目的や条件に応じて、適切に表現すること>

目的に応じて適切に表現することや条件に応じて適切に表現することは、様々な学力調査から、課題があることが明らかになっている。これらの力を付けるために、例えば文学作品や説明文を読んで感じたことや気付いたこと等をグループで交流する際には、テーマや条件を設け、それに沿って交流するよう指導することが必要である。また、説明文を読んで要約する際には、その目的を明確にしたり条件(文字数等)を設けたりして、適切に要約するよう指導することが大切である。

<正しく聞き取ったり読み取ったりすることの指導>

発問やワークシートで指示されている内容を正しく聞き取ったり読み取ったりすることは、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の学習として重要であるため、取り出して指導する必要がある。そのためには、適切な発問や指示をする、様々な答えを並べて発問や指示の内容と比較検討させる等、具体的な場面をとらえて指導するとよい。

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

(1) 読むこと

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22	H23
	71	68	84.5	68.2	67.2

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1 読むこと	問一	説明文の多くには、書き手が読み手に問いかけている文があります。田中さんも文章の中に問いかけの文を見つけました。①から⑦段落の中からその文を書きぬきましょう。	では、朝ごはんを食べると、どんないいことがあるのでしょうか。	朝ごはんを食べたほうがいいのか？（題名）		53.8	7.6	75
	問二 (1)	田中さんは、朝ごはんを食べる四つの良さを短い文でまとめて、それぞれをカードに書きました。 <u>四つ目の書き方のように</u> 、一つ目から三つ目を書きましょう。	一) 頭のはたらかきが活発になる。	時間がないからといって朝ご飯を食べない人がいます。		79.4	2.5	70
			二) 体温があがって、からだが活発に動き始める。	ねぼけた体を起こすためにも朝ご飯を食べることが効果的です。		78.5	3.0	75
			三) おなかのリズムを整える働きがある。	朝ご飯を食べるといいことづくめです。		72.2	3.4	75
	(2)	田中さんは、四つのよさの中から、特に心に残ったことを一つ選んで、次のように発表しました。 わたしは、⑥段落の朝ご飯を食べない人より太りにくくなるということが心に残りました。 なぜなら、わたしの姉はダイエットと言って朝ご飯を食べなかったのに、少しもやせなかったことがあるからです。 <u>一つ目から三つ目のよさの中で、あなたが特に心に残ったことは何ですか。</u> 田中さんの発表の仕方に合わせて、あなたが特に心に残ったことと、 <u>そのわけ（今まで自分が体験したことや見たこと、聞いたことなど）</u> を書きましょう。	(例) わたしは、④段落の朝ご飯を食べると体温があがってからだ活発に動き始めるということが心に残りました。 なぜなら朝、寒いときに朝ご飯を食べたら、体が温まって元気に動けるようになったからです。	【段落】 ⑦ 【内容記述】 ・残りの3つのよさの中から選んでいない。 ・文型が不十分。 【理由記述】 ・体験をもとに書いていない。 「なぜなら朝ご飯を食べるだけで脳が活発に動くからびっくりした」	段落選択			
						68.3	2.9	75
						50.7	3.6	55

(単位：%)

結果の概要

【問一】は、説明的な文章の中で、目的に応じて、中心となる文をとらえて文章を読むことができるかを見る問題である。正答率は53.8%であった。

誤答には、題名の「朝ご飯を食べたほうがいいのかはなぜ？」がという解答が多く見られた。設問に「①から⑦段落」の中からの条件が示されていたが、「なぜ？」という言葉を手がかりに、題名を書き抜いたと考えられる。問いの表現に着目することはできているが、文章全体の中から問いかけの文をとらえることができなかったと思われる。また、無解答率が7.6%であった。

【問二】の(1)は、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読むことができるかを見る問題である。正答率は一つ目から順に79.4%、78.5%、72.2%となった。書き方の例のように、「四つ目は」を除く最初の一文が中心の文となっていることに気付いた児童が多かったためと考えられる。ただし、正答の中には文章中の敬体の表現を常体にせず、そのまま書き写しているものも多く見られた。

誤答では、それぞれの段落の全文を書き抜いたものや、段落の後半に書いてある具体的な例示部分を書きぬいているものが見られた。段落の中心となる文を的確にとらえることが不十分であると考えられる。

(2)は、文書の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめることができるかを見る問題である。正答率は、【段落選択】68.3%、【理由記述】50.7%であった。【段落選択】に対し、【理由記述】の正答率が低いことから、引用することはできても自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめることができなかったと考えられる。【理由記述】の誤答として、「なぜなら朝ご飯を食べるだけで脳が活発に動くからびっくりした」といったものが多くみられた。自分の体験などではなく、思ったことをそのまま書いているものが多く、自分の経験を結び付けて考えをまとめることが難しかったと考えられる。

また、題意を十分に理解しないまま問題に取り組んでいる点が全設問に共通して見られた。

指導のポイント

1 目的に応じた読みの指導

読む目的に応じて中心となる語や文をとらえる力を付けるには、目的を明確にした読みの学習を行うことが重要である。同じ文章でも、目的が引用と要約では、注目すべき語や文が異なる。要点にまとめるために注目すべき語や文をキーワードやキーセンテンスとして探させたり、内容を大まかに整理するために小見出しを付けながら読ませたりと、様々な目的に応じた読みの学習を展開していくことが大切である。

また、教科書のみでの学習にならずに、テーマ・ジャンル別、シリーズ等、学校図書館を活用して比べ読みの学習を効果的に設定するとよい。

2 交流を通して、自己の考えを形成する読みの指導

説明的な文章を読んで、その内容や表記の仕方についての感想などを交流する活動を通じ、「引用すること」「以前に読んだ本と比べたり、自分のもっている知識や現実と結び付けたりして考えを深めていくこと」の指導を展開していく必要がある。例えば、筆者の意見に対し自分はどうか考えるかなど、感じたり考えたりしたことを問うことで、根拠となる文を引用し、体験などと結び付けて自分の考えを形成することを指導していくことが大切である。

文学的文章では、感想を交流する活動を行うことは多いが、説明的な文章においても、考えを形成し交流する楽しさを感じ取らせ、学級全体で進んで読書しようとする態度を養うようにしたい。

(2) 話すこと・聞くこと

領域別正答率 (%)	H20	H21	H22	H23
		71.9		66.4

大問・領域		問題		自校の正答率		市の正答率		市の無解答率		設定通過率																																													
田村さんのクラスでは、「一年生となかよくなるう会」で遊ぶ内容について、各はんで話し合ってアイデアを出すことになりました。一ぱんの話し合いの様子を読んで、あとの問いに答えましょう。				【話し合いのつづき】 <table><tr><td>田村</td><td>一人ずつ考えを言ってもらいましたが、質問や意見はありませんか。</td><td>山本</td><td>トランプ (ばばぬき)</td><td>・トランプさえあれば、みんなが楽しめる。 ・雨でも教室でできる。</td></tr><tr><td>木村</td><td>ぼくは、山本さんのばばぬきという考えは、天気に関係なく楽しめるのだよと思います。それに、じゅんぴに時間がかからないというのは二人とも考えが同じです。</td><td>森田</td><td>おにぎり</td><td>・みんな知っている。 ・道具を用意しなくていい。 ・一年生が楽しめる。 ・何もじゅんぴしなくていい。</td></tr><tr><td>森田</td><td>ぼくもそう思います。でも、ばばぬきに決めないで、トランプの別のゲームとか、教室でできる他のゲームも考えるとよいと思います。</td><td>田村</td><td>みんなの意見をまとめると、場所は教室でいいですか。</td><td></td></tr><tr><td>田村</td><td>では、次に遊びを決めます。森田さんからありましたが、</td><td>全員</td><td>賛成です。</td><td></td></tr><tr><td>山本</td><td>うですもうはどうですか。前にやったことがありますか、とても、もり上がりました。五年生は左でやったり、一年生は両手でやったりしてもよい、などにします。</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (「」の後で話し合いがつづく)								田村	一人ずつ考えを言ってもらいましたが、質問や意見はありませんか。	山本	トランプ (ばばぬき)	・トランプさえあれば、みんなが楽しめる。 ・雨でも教室でできる。	木村	ぼくは、山本さんのばばぬきという考えは、天気に関係なく楽しめるのだよと思います。それに、じゅんぴに時間がかからないというのは二人とも考えが同じです。	森田	おにぎり	・みんな知っている。 ・道具を用意しなくていい。 ・一年生が楽しめる。 ・何もじゅんぴしなくていい。	森田	ぼくもそう思います。でも、ばばぬきに決めないで、トランプの別のゲームとか、教室でできる他のゲームも考えるとよいと思います。	田村	みんなの意見をまとめると、場所は教室でいいですか。		田村	では、次に遊びを決めます。森田さんからありましたが、	全員	賛成です。		山本	うですもうはどうですか。前にやったことがありますか、とても、もり上がりました。五年生は左でやったり、一年生は両手でやったりしてもよい、などにします。																						
				田村	一人ずつ考えを言ってもらいましたが、質問や意見はありませんか。	山本	トランプ (ばばぬき)	・トランプさえあれば、みんなが楽しめる。 ・雨でも教室でできる。																																															
木村	ぼくは、山本さんのばばぬきという考えは、天気に関係なく楽しめるのだよと思います。それに、じゅんぴに時間がかからないというのは二人とも考えが同じです。	森田	おにぎり	・みんな知っている。 ・道具を用意しなくていい。 ・一年生が楽しめる。 ・何もじゅんぴしなくていい。																																																			
森田	ぼくもそう思います。でも、ばばぬきに決めないで、トランプの別のゲームとか、教室でできる他のゲームも考えるとよいと思います。	田村	みんなの意見をまとめると、場所は教室でいいですか。																																																				
田村	では、次に遊びを決めます。森田さんからありましたが、	全員	賛成です。																																																				
山本	うですもうはどうですか。前にやったことがありますか、とても、もり上がりました。五年生は左でやったり、一年生は両手でやったりしてもよい、などにします。																																																						
2 話すこと・聞くこと																																																							
問一 一ぱんの話し合いでは、田村さんはどんな役をしていますか。 問二 木村さん、森田さん、山本さんの発言について説明したものは次のうちのどれですか。もっともふさわしいものをア～オの中からそれぞれ一つ選んで、記号を書きましょう。 ア 自分の体験などを取り入れて、発言している。 イ それた話題を元にもどすように、発言している。 ウ 話し合いの内容が広がるように、発言している。 エ 自分の意見のよさを強調して、発言している。 オ 友だちの考えのよさを取り上げて、発言している。 問三 田村さんは、 A のところでどのように言うといいでしょう。「森田さんからありましたが、」に続くように、ふさわしい言い方を考えて書きましょう。				<table><tr><td colspan="4">問一</td></tr><tr><td>80.5</td><td>4.7</td><td>80</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">問二</td></tr><tr><td colspan="4">木村さん</td></tr><tr><td>72.0</td><td>3.9</td><td>70</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">森田さん</td></tr><tr><td>63.3</td><td>4.3</td><td>65</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">山本さん</td></tr><tr><td>74.9</td><td>4.5</td><td>80</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">問三</td></tr><tr><td>41.5</td><td>9.5</td><td>65</td><td></td></tr></table>								問一				80.5	4.7	80		問二				木村さん				72.0	3.9	70		森田さん				63.3	4.3	65		山本さん				74.9	4.5	80		問三				41.5	9.5	65	
				問一																																																			
80.5	4.7	80																																																					
問二																																																							
木村さん																																																							
72.0	3.9	70																																																					
森田さん																																																							
63.3	4.3	65																																																					
山本さん																																																							
74.9	4.5	80																																																					
問三																																																							
41.5	9.5	65																																																					
【正答・採点基準】 問一 「司会」「進行」「話し合いの中心」「まとめる」「話し合いを進める役」など、司会の役割がわかるような言葉を使っていれば可 問二 木村さん…オ、 森田さん…ウ、 山本さん…ア 問三 次の二つの要素を満たしていれば正答とする。 ① 森田さんの発言「ばばぬきに決めないで、トランプの別のゲームとか、教室でできる他のゲームを考えるとよいと思います。」を受けて、<u>ばばぬき以外の種類やトランプ以外の教室内のゲームに限定した内容</u>になっている。 ② 文末が、「～ありますか。」や「～を発表してください。」「～言ってください。」等、<u>発言を促すよう</u>になっている。																																																							

(単位：%)

話すこと・聞くこと

結果の概要

【問一】は、司会の役割を考えながら話し合っているかを見る問題である。正答率は80.5%であった。司会者が発言者の意見や提案を受け止め、出席者が納得いくように進行する役割を担っていることについては、おおむね理解できていることがうかがえる。誤答は、「1年生となかよくなるう会」という話合いの議題を挙げたものが多かった。「田村さんがどんな役をしているか」という設問の意図をとらえられなかったためと思われる。

【問二】は、提案などの役割を考えながら話し合っているかを見る問題である。話し合っている3人（木村さん、森田さん、山本さん）が、それぞれどのような発言をしているか、5つの選択肢から選ぶものである。正答率は、63.3～74.9%であった。正答率がいちばん低かったのは、森田さんの「ぼくもそう思います。でも、～も考えるといいと思います。」という「話し合いの内容が広がるような発言」を、「友だちの考えのよさを上げた発言」としているものである。発言冒頭の言葉「ぼくもそう思います。」から誤って選択したものと思われる。

【問三】は、司会の役割を考えながら話し合っているかを見る問題である。司会の言葉を考える設問で、話し合う内容を伝えるためにふさわしい言葉と、発言を促すような言葉の2つの要素を満たすことが求められたが、正答率は41.5%であった。誤答では、「～と思います。」「～をします。」のように、発言を促す文末でないものがあつた。また、「1年生との遊び」を話し合うにあたり、森田さんの意見を受けて「ばばぬき以外の種類やトランプ以外のゲーム」「教室内でできるゲーム」という条件を加えて話合いを進めてほしいところを、「他に、やりたいゲームはありませんか。」のように、森田さんの意見を意識せずに投げかけてしまう文言が多かった。話合いにおいて、意見を練り上げていく経験や、司会者や発言者の言葉についての理解が不十分であることがうかがえる。

指導のポイント

1 役割を意識して話し合う経験を重ねること

司会者は、話合いを計画的、効率的に進めていくために、次のような能力が求められる。

- ・ 発言者の様々な意見や提案を整理する
- ・ 話し合いの論点を明確に示す
- ・ 合意を得て進行する
- ・ できるだけ多くの出席者に発言を求める
- ・ 時間配分を踏まえて最終的な結論へ導く

司会の能力を高めるためには、司会を繰り返し経験することが必要である。各教科等との関連も含め、様々な学習活動の中で児童同士で話し合う場を設定していく。人数の少ない小集団から、学級全体、学年や学校全体へと、発達段階に応じて経験を積み重ねるようにする。

2 発表する力、聞く力を高めること

建設的な話合いにするためには、司会者だけでなく参加者の話す力・聞く力を高めることも重要である。司会者には、話の組立てを工夫し整理しながら話すことや、発言者の意図を考えながら聞くことを指導する。発言者には、事実や感想、意見を区別して話すこと、結論から先に述べて根拠を後に述べることなど、構成を工夫した話し方を指導していく。また、話合いにおける聞く力を高めるには、自分の意見との相違点や共通点などを考えて聞いたり、全体と部分、事実と意見との関係に注意して聞いたりする指導を工夫する。これまでの経験で、話合いがうまくいかなかった場面を想起させると、話合いをするための司会の仕方、発表の仕方を学びたいという意欲を高めることができる。さらに話合い台本や映像をモデル教材にし、言葉の使い方に着目させていくと、進行の仕方や発言の仕方などに視点をあてた学習ができる。

(3) 言語事項

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22	H23
	74	75	80.1	72.6	71.5

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3 言語事項	問一	(1) ゆう勝するから、期タイしててください。 (漢字の書き)	待	対・体・持大		48.1	20.3	75
		(2) わたしは、その意見に反タイします。 (漢字の書き)	対	体		77.0	9.9	85
		(3) 上トウなおかしをいただきました。 (漢字の書き)	等	当・島		60.6	18.3	60
		(4) わたしは、伊豆半トウに旅行しました。 (漢字の書き)	島	東・等		70.0	13.1	75
	問二	(1) 先生に <u>指</u> されて、答えを言う。 (漢字の読み)	さ	しめ・しじゆび		75.5	3.9	80
		(2) <u>辺</u> りを見まわす。 (漢字の読み)	あた	まわ		83.6	3.2	80
		(3) 子どもをりっぱに <u>養</u> う。 (漢字の読み)	やしな	おぎな・よ・いわ		59.2	17.3	65
		(4) やさしく <u>説</u> く。 (漢字の読み)	と	せつ・くど		45.5	20.8	55
	問三	「いたい」という言葉を国語辞典で調べたら、□の中 の①と②の二つの意味がありました。次の(1)から(3) の「いたい」は、①と②のどちらの意味になりますか。 それぞれふさわしい方を選んで、それぞれ①・②で書き ましょう。 ① 病気やきずなどで体にいたみを感じる。 ② 心に苦しみを感じる。とてもこまる。						
		(1) おなかがいたかったので、ほけん室 に行きました。	①			92.1	5.3	85
		(2) それを言われると、耳が <u>いたい</u> です。	②	①体にいた みを感じる		74.5	8.0	70
		(3) わたしが言った言葉で友達がしょん ぼりしてしまったのを見て、むねが <u>いたんだ</u> 。	②			90.1	5.6	80
	問四	(1) <u>ぼくは、きのう、山下君と</u> ア イ ウ <u>公園で遊びました。</u> エ オ	主語ア 述語オ	述語 ウ 山下君と エ 公園で		80.8 79.1	6.1 6.9	85 80
		(2) <u>わたしの</u> <u>妹は、とても</u> <u>かわいい。</u> ア イ ウ エ	主語イ 述語エ	主語 ア わたしの		56.6 79.8	6.7 6.8	55 80

(単位：%)

言語事項

結果の概要

【問一】は、「さいたま市基礎学力定着プログラム」に取り上げられている同音異義語からの出題である。正答率が48.1～77.0%であった。「半島」「反対」は、普段の生活で目にしたり実際に使ったりする頻度が高いためか、正答率が7割を超えたが、「期待」「上等」は、3学年の配当漢字であっても、漢字の表す意味まで理解できていないことがうかがえる。

【問二】の(1)は平成20年度、(2)(3)は平成19年度、(4)は平成22年度に、さいたま市学習状況調査で出題されている。正答率は45.5～83.6%であったが、「指す」「説く」の正答率は今年度の方が低くなっている。「指示」「指名」「説明」という読みと混同し、読み違えたことが考えられる。

【問三】は、辞書を利用して調べることができるかを見る問題である。正答率は74.5～92.1%であり、辞書を利用して調べる力はおおむねついていることがうかがえる。(2)の「耳がいたい」の意味を問う部分は、正答率がやや低かったが、慣用句であることをとらえられなかったと考えられる。

【問四】は、さいたま市学習状況調査で、平成20年度に出題されている。正答率は、平成20年度は57～86%だったのに対し、今回は56～80%と、低くなっている。正答率が低かったのは、(2)の主語を問う設問で、文頭に来る語句がいつも主語になると理解しているためであると考えられる。主語、述語、修飾語の理解が定着していないことがうかがえる。

指導のポイント

1 漢字の指導

新出漢字を指導する際、それぞれの漢字がもつ意味や、その由来などにも触れる必要がある。

視写したり繰り返し練習したりするだけでなく、自主的に熟語を調べるような学習も積極的に取り入れたい。また、読み方の分からない漢字があれば辞書を活用したり、提示された誤答例のどこが違うかを個々で見つけたりする学習も効果的である。

2 辞書の活用

国語辞典、漢字辞典の使い方を学習した後、繰り返し活用できる環境を整えることが重要である。

「読むこと」の学習では、文脈に沿った一番ふさわしい意味を選ぶ経験を重ねることができる。

「書くこと」の学習では、推敲場面で誤字脱字がないか確かめることができる。調べた積み重ねが目に見えるように調べたページに付箋を貼ることも、意欲付けとなる。国語の学習に限らず、他教科でも手元に辞書を置き、積極的に辞書を使いこなす工夫をしたい。

3 主語と述語の関係の理解

主述の関係を正しく理解していないと、筋道の通った文章を書いたり、正確に読み取ったりすることが難しい。「読むこと」の学習では、人物の行動描写を読む際に、「誰が」したことか、話したことか、主語を補っていくと効果的である。一方、話し言葉や書き言葉では、「わたしは～」などの主語を多用しないよう、あえて省略する場合がある。日頃から短文作りに取り組むなど、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習とも関連させながら習熟を図るようにしていく必要がある。

(4) 書くこと

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22	H23
	66	78	86.7	42.9	42.6

大問・領域	問 題	自校の正答率	市の正答率	市の無答率	設定通過率
4 書くこと	町田さんは、次の文章を読んで、書き直した方がよいと思うところを見つけました。書き直した方がよいと思った理由と、どのように書き直した方がよいかを説明したものと、ふさわしいものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。※文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。 ①わたしは、五年生になってからクラスのためになるような仕事や活動に積極的に取り組もうと思った。②しかし、具体的にどんなことをしたらよいのかなやんでしまった。 ③そこで、先生に相談すると、 「あなたの好きなことがクラスのためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいのかいれいな教室にしようと思った。 1 ②の文は、「だれが」という主語がぬけているから、主語となる「先生」を書き足した方がよい。 2 ③の文は、「～ので」が続いて長くなり、分かりにくいから、一文を分けて書いた方がよい。 3 ③の文は、「 」の部分は、先生が話した言葉だから、〈話してくださった〉まで「 」に入れたほうがよい。 4 ①から③までの文は、述語が「～った。」になっているから、「～です。」や「～ます。」も使ったほうがよい。		33.2	6.9	50
	小林さんは、友だちにはがきを書くことにしました。はがきの表に名前や住所を書きます。次のア・イ・ウ・エの中に入るふさわしいものを、1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。 1 自分の名前 2 相手の名前 3 自分の住所 4 相手の住所		52.0	5.0	65

結果の概要

④は、文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることができるかを見る問題である。正答率は33.2%であった。3つの文の中で書き直した方がよい文を見つけ出し、その理由と方法を4つの選択肢から選ぶものである。正答は『「～ので～ので」と理由を述べる内容が続いて分かりにくいので、一文を分けて書いた方がよい』であった。4つの選択肢からの解答であったが、出題問題の中で最も低い正答率であった。

誤答を見ると、そのほとんどが「①～③までの文は述語が『～った。』になっているから『～です。』や『～ます。』も使った方がよい。」を挙げていた。これは、分かりやすい文章を意識することよりも文末表現にとらわれて、安易に選んだことによると思われる。

⑤は、目的に応じて適切に書くことができるかを見る問題である。正答率は52.0%であった。はがきの宛名を書く際に必要な「相手の住所」「相手の名前」「自分の住所」「自分の名前」をはがきのどの位置に書くかを答える問題であった。

誤答を見ると、はがきの右側に書く事柄が「自分や相手の名前」であったり、中央に「相手の住所」が入っていたりとその解答は様々であった。生活の中で「はがきを書いて出す」という経験が少なくなっていることがうかがえる。

指導のポイント

1 文章を推敲する力を高める指導

(1) 分かりやすい文章を書く指導の展開

「経験したことを報告する文章を書く」「観察したことを文章に書く」など様々な書く活動の中で、「誰に読んでもらうのか」「何を伝えたいのか」という相手意識と目的意識を明確にさせることが大切である。読み手を意識したとき、児童は相手に分かりやすい文章を書きたいと思い、主体的な学び手となる。そして、分かりやすい文章（よりよい文章）を書くためのポイントを明確にした書く活動の展開を図る。分かりやすい文のポイントとして、「一文が長すぎないこと」「主語、述語が対応していること」「語と語のつながりが適切であること」などを示し、児童の書きぶりをしっかり見とっていく。その中で、ポイントを生かした文章を積極的に紹介して書く活動を積み重ねることにより、分かりやすい文章を書く力を高めることが期待できる。

(2) 推敲の観点を明確にした学習の展開

推敲の習慣を付けるために、書き終えたら「読み返す活動」の時間を設定することが必要である。その際には、文章を読み返す目的と観点を明示し、友達と推敲し合う場やよい推敲例を取り上げて全体で学ぶ場を設けることが大切である。このような推敲の仕方や価値を確認する活動を繰り返し行うことにより、推敲する力を高めることが期待される。

2 目的に応じて適切に書く力を高める指導

(1) 目的に応じた文章を書く指導の展開

文章を書く目的としては、「報告する、説明する、依頼する、案内する」などがある。それぞれの書く目的を計画的に取り上げ、様々な表現方法（手紙・新聞・パンフレットなど）と関連させて書く活動を展開することが大事である。活動の際、モデル文などを活用し、目的に応じた文章構成や、根拠となる事柄や具体例の取り上げ方などを習得できるようにする。

(2) はがきや手紙を書いて出す実の場の設定

全教育活動の中で、計画的に依頼状、案内状、礼状などのはがきや手紙を書いて出す実の場を設定することは、国語の学習で身に付けた力を発揮することで生きてはたらく力となる。また、はがきや手紙を書いて人とコミュニケーションをとる楽しさや喜びを実感させることは、将来的に手紙を書く習慣をもつ子どもを育てることにつながる。